

まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：福祉分科会

開催日時：平成 21 年 11 月 7 日（金）17 時 00 分～17 時 35 分

開催場所：松戸商工会館 5 階大会議室

出席委員：荒久美子、海老原寛子、小寺邦明、古宮保子、峪二葉、百田清美、
文入加代子、細田香苗、三木京子、村島隆一、石井久雄、林総太郎

欠席委員：鎌田啓作（敬称略）

会議内容

参加者から各分科会へのコメントを受け、その感想をグループで共有しながら対話を行った。

- ・発表の中で伝わらないところがあった（主旨をはぶいた）。
- ・引きこもる自由もある。
- ・自立できるようにサポート（心の自由）。
- ・宣言文は短文とした。
- ・老いや死のモデルには多数のモデルがある。
- ・ウィズエイジング（その年齢をそのままに）
- ・それぞれの状況でサポートする（行政・市民で）

資料：発表を聞いてのコメント（地域連携分科会へ）

以上

発表を聞いてのコメント（福祉分科会へ）

- ・ 無料の遊び場の維持管理費は、全て公金でまかなうのか。少しの負担を利用者にお願いしてはいけないのか
- ・ 無料の遊び場（たまり場）をたくさん提供するのは大いに共感します。どうぞ実現できますことを願います
- ・ 無料の遊び場をたくさん提供する。子どもの笑顔あふれる街にする
- ・ 子どもの笑顔があふれる街となることが大切。つらい、悲しい思いをしている子どもたちがいなくなるように
- ・ 笑顔のある子どもの多い松戸を目指すと良いと思います
- ・ 子どもの笑顔あふれる街に賛成。経済環境の改善が不可欠と思う
- ・ 是非、子どもの笑顔があふれる松戸市を目指したいと思います
- ・ 子どもの笑顔があふれる街に、様々なサービスを地域ぐるみで支援
- ・ 楽しく子育てできる松戸を実現
- ・ 子育てできる松戸との宣言文はとても大切だなと思いました
- ・ 子育てできる松戸を実現することは共感できる
- ・ 若い世代が松戸で子どもを産み、育てたいと思える提案がたくさんあり、うれしいです
- ・ 子育てを楽しめるよう主婦（夫）も地域デビューする
- ・ こどもの笑顔があふれる街を実現できているか、はかるための指標が必要では？
- ・ 遠い未来ではなく、できることからすぐ具体化していく
- ・ 「市民後見制度」の確立。市が主導をとり、貧者、やや貧者も経済的不安なくして老いていけるよう、サポートする
- ・ 農地転用は良い案ですね
- ・ 使われていない農地の利用は賛成
- ・ 使われていない農地を地域交流の場作りの核にする
- ・ 農地の活用の計画に是非参画したい
- ・ 使われていない農地の活用に賛成。さらに考えを進めて、空き家、樹林地も活用を考えたらどうか
- ・ 放棄農地の有効活用
- ・ 使われていない農地は、農地としての有効性を探ることが先決問題ではないでしょうか
- ・ 使われていない農地活用の提案、是非実現を！
- ・ 具体的な提案について。遊休農地の活用について、漠然としていますが、将来に向けて有効な活用方法を考えてみたい
- ・ 使われていない農地を地域交流の場作りの核にするというのは、ちょっとわかりません
- ・ 地域・行政のサポートを受けて、自立した生活を目指す

- ・ 老いや死のモデル提示し、どう生きるか老いていくか考えて不安なく自立した生活を
- ・ どう生きたいか、どう老いるか考えたことがなかった。対策を考えることにより不安解消、自立につながる
- ・ 老いや死のモデルは難しい
- ・ 老いや死のモデルを提示し、それを実現するサービスを提供するというのが心に残った
- ・ 生き方論は非常に哲学的
- ・ どう生きたいか、どう老いるか、どう死ぬか、高齢者が最後まで安心して住める場所、老いる場所、死ぬ場所、例えば特別用語老人ホームの充実についても入れてほしい
- ・ 自分の人生いかに生きていかに死ぬか？自分の存在価値は？常に考えて暮らしています
- ・ 生き方、老い方を考え始めたとき、社会デビュー。老いに対する積極的な向かい方の必要を感じた
- ・ 市民が自身のライフプランを持つことは良い
- ・ どう生きたいか、どう老いるか、どう死ぬかを考えていくのが大切、というのは宣言文としてすばらしい
- ・ 「生き方、老い方、死に方」は、特に「死に方」を考えるとユニークであるが、どのような死に方が大切か？
- ・ どう生きたいか、どう老いるかなど考えることはとても難しい問題です
- ・ 市立病院に必要な資金や人材の確保には私も大いに共感し、良質な治療が出来るようにしてほしい
- ・ 専業主婦に対する対策は？
- ・ 介護の問題、介護施設についてどのように検討されました？
- ・ 引きこもることも一つの生き方であると認めてもらえませんか？
- ・ 老後は家庭では対処できません。社会全体で支えることは重要だと思います
- ・ 救急患者対応が不明（たらい回し対策）
- ・ 地域活動の発展が最重要課題と思う
- ・ 地域の活動を発表できるネットワークづくり
- ・ 百貨店型の施策ではなく、松戸ならではの施策を作っていければと思いました
- ・ 施策全体について百貨店型ではなく「重点化」が必要。あれもこれも挙げ、並べてもやり切れるものではないので
- ・ 百貨店型行政からの脱却に大賛成！！
- ・ 百貨店型ではなく特徴を色濃くしたという部分を、一つの大切な視点と考えた
- ・ 百貨店型をやめるという提案になるほどと感心しました
- ・ 一人一人が目的をもった、個人の尊厳を保ちながら生きる、生活スタイルに合わせて選択できる、地域ぐるみで支援する、患者満足度、という言葉に共感した

- ・ 「必要なときに必要なサービス」を付け加えたい。一方通行ではなく、双方向で！
- ・ 人が生きていく過程で必ず体験する内容であり、大切なテーマであることを改めて認識しました
- ・ 市民ひとりひとりが自分の健康を自覚することに共感できる
- ・ コミュニティバスは是非実現してほしい
- ・ 自分で選択するための情報提供が必要（どんなサービスがあるのか）
- ・ 福祉とは自立の援助。与えるものではない
- ・ 福祉とはしてあげることではない。自分の幸福を得るための、自分のために行うこと
- ・ 子どもの安全が保たれるように地域の高齢者の助けを借りるという部分は、地域全体ではだめでしょうか？
- ・ 森林セラピーを導入できないか（市立病院や福祉施設に）
- ・ 少子化対策
- ・ 各宣言文ともに明解・簡潔でとても良いと思いました
- ・ きめ細やかな具体的な提案が多く大変良かった。専門性のある共通した人のまとまった想いが伝わった
- ・ 全体的に簡潔。すっきりまとまっていると思います
- ・ 理解しにくい横文字が目立つ
- ・ 宣言文がとてもわかりやすいと思いました。言いたいことがよく伝わってきました
- ・ 発表がわかりやすく、分科会の皆さんの想いがよく伝わってきました
- ・ 待ち時間のない救急車対応（病院への円滑な受け入れ）
- ・ 「近隣住民の助け合い」毎日の生活の中で、自分たちで基礎作りをする向こう三軒両隣
- ・ ご近所ネットワークづくりは、地道だが必要である
- ・ 自治会などを通じて、隣近所の人達とコミュニケーションを図るように
- ・ 近隣の人々と対話する機会を増やすことが、福祉には大切
- ・ 健康に暮らせるようにするには自分で自分の管理をし、地域に溶け合う
- ・ 地域のグループ作り（町会対抗リレー運動会）
- ・ 近所ネットワーク作り、人間関係が重要と思う
- ・ ご近所、友人など横のつながりづくりに共感した
- ・ 多様な世代との交流の場作りは、大切だと感じました
- ・ 「地域福祉」地区単位で各団体が横の連絡をどのように作るか
- ・ 自分で判断できない、多数の中に入っていけない高齢者へのサポートが大切。動けない病弱、障害のある人の声などについて拾うのが大切
- ・ 高齢者の健康づくりのためになる公園づくりは大変良い。他市での参考例もある
- ・ 会社人間を地域人間に
- ・ 生きがい健康につながる考えは共感できる
- ・ 生きがいを健康につなげる新しい視点であり、共感しました

- ・ 地域交流の場づくりの核に、使われていない農地、学校の空き教室、町会などの会館、がある
- ・ こんなにいろんなことを考えながら生活するのはきついなあ～
- ・ 生きがいのある暮らしのうちには、スポーツ活動、文化活動もあると思います。教育分科会ではそれらの機会と場を増やしたいとしています
- ・ 社会参加するのはどのようにするか？
- ・ 大切な重要なことです。早く実現できることを期待しています
- ・ 必要となるときにタイムリーに必要なサービスを受けたいとき、個人にあったサービスを的確に受けるためにコーディネーターがあったらよいとの意見に共感
- ・ 生活保護の適正使用について見直すこと
- ・ 若い働くお母さんのため病児、病後児保の充実など
- ・ 行政サービスを受けるために役所をたらい回しされることがあってはならないし、特に老人に対しての情報の発信の方法には工夫が大切
- ・ 「誰もが～自立した」自立できないからサポートが必要。しかしサポートがあっても自立はできない
- ・ 自立できなくても地域で暮らしたい。サポートの体制は自分でSOSを出せない人のためにどうしたらいいか。情報収集、サービス提供など
- ・ 新市立病院の機能アップを！
- ・ 市立病院については今以上の機能、サービスの向上、退院後のコーディネート相談窓口の開設
- ・ 市立病院が核となって地域と連携する仕組みは良い
- ・ 市立病院も料金を払わない人がいるのではないか？（千葉西は多いと聞く）
- ・ 公立病院、経営の安定が望まれるが、不採算部門を受け持たなければならない役割も無視できない。
- ・ 市立病院のホスピスケア、ターミナルケア病棟の設置。安心して松戸に暮らし、死ぬときも松戸で
- ・ 市立病院の運営手法に、ボランティアやNPO法人の導入を広げてはいかが？
- ・ 医療機関ごとの役割を分担するとの宣言はとても大切だと思います
- ・ 地域病院との連携が、目に見える形になるといいと思います
- ・ 市立病院として、予防医学的な情報の発信源となることが必要なのではないか
- ・ 名称を「市民病院」としたほうがよいのでは？
- ・ わかりやすい病院情報はその通りだと思う
- ・ ドクターヘリ、ドクターカーなど、新病院建設にあわせ、救急救命体制の充実
- ・ 病院の機能。急性期・高度医療とともに、ターミナルケア、がん治療、難病等の在宅医療についても積極的に対応し、地域連携とともに、地域ケアのバックアップ機能を持たせてほしい

- ・ 23 ページ宣言文の、「医療機関や福祉サービス、市民ボランティアと連携し」が重要と感じたが、現在ある組織をどのようにして活用するかが課題であると感じた
- ・ 地域の医療機関や社会福祉サービスが市民ボランティアと連携
- ・ 「障害」ではなく「障がい」と書きませんか
- ・ もう少し触れたかったことは、食育、消費者問題のこと
- ・ 家族の笑顔があふれる街が良い
- ・ 健康チェックしやすい仕組みづくり
- ・ 松戸は障害があっても高齢になってもどんな状況でも住みたい、住み続けたい街になってほしい
- ・ 「誰もが不安なく自立」の言葉に共感しました
- ・ 市民の役割が数多く挙げられていて、その姿勢が素晴らしいと思いました
- ・ 地域医療の核について40年くらいから、例えば藤沢市ではこのような体制を取っている。今頃遅い。もう一歩進んだ案を
- ・ 年金問題、医療費問題の解決
- ・ 出生率の向上。産まない選択をする人を否定していないか、いろいろな生活があるといいつつ、矛盾しているのではないか。産みたい人が産んだ数のほうがよい
- ・ 市の保有地も利用できるのではないか？

以上